

第2回吹田市健都イノベーションパーク利用事業

(第2アライアンス棟(第I期)整備・運営事業)

事業者選定会議 議事要旨

(1) 日時

令和7年9月4日(木) 午後0時45分から午後5時15分まで

(2) 出席者

健康医療部長(委員長)、総務部長、都市魅力部長、児童部長、福祉部長、都市計画部長(委員長代理)、学校教育部長及び専門的知見を有する有識者や健都関係機関の職員(以下「外部有識者」という。)6名

(3) 案件

提案内容の評価

(4) 議事概要

参加表明書、提案書等の応募書類を提出した2団体による提案内容のプレゼンテーション及び質疑への応答を受け、以下のとおり外部有識者より意見があった。

<応募団体Aに関する意見>

	意見
外部有識者 1	<ul style="list-style-type: none">・自己資金が多く、財務の健全性は確認できる。・事業の継続性の観点からも十分な資金であり、事業計画をみても黒字となっていることから、突発的な事象に対しても対応可能と考える。
外部有識者 2	<ul style="list-style-type: none">・給食事業に関して全国での実績があり問題ない。・地域の食材を活用した給食や催しの実績から、健都フェスなどへの貢献が期待できる。・建屋の中に、研究の中核施設が見受けられない。・調理をする方や管理栄養士がいるだけで、全国にある給食調理施設のうちのひとつとしか見られない。
外部有識者 3	<ul style="list-style-type: none">・産学連携の具体性が乏しい。・研究はするとのことだが、健都イノベーションパークの中で具体的に食を通じた健康・医療という点で、どのような研究が核になるかについての提案がなかった。・人材配置についても、研究開発の実施能力に欠ける。(※)・施設の大部分が給食調理施設であり、研究開発のためのハード面が充

	意 見
	<p>実していないと見受けられた。(※)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのため、全体的に健都のコンセプトについて十分に理解できているとは思えず、適合しているとは言い難い。(※)
外部有識者 4	<ul style="list-style-type: none"> ・前の二名（外部有識者 2 及び外部有識者 3）と同意見である。 ・健都のコンセプトに合った研究・開発の活動という点であまりにも具体性に欠けており、実現性についても疑問に思う。 ・給食センターの域を出ないとの感想を持っている。
外部有識者 5	<ul style="list-style-type: none"> ・地方の特産品を利用した給食の事例など、ニーズはあるが明確化されていない。情報発信のネタとしてのシーズはある。 ・経営理念はいい。経営理念の延長で、健都イノベーションパークで給食提供を行うとともに、それを高度化し、発展させるために地域内で連携する意思があると感じた。 ・研究面のリソースが不安との意見があったが、大きい企業であり、異動と新規採用での動員は可能。工学系の人材もいるとのこととシーズはある。 ・研究開発・連携のためのニーズの明確化が必要だが、課題を与えてあげることで対応できるリソースはあると感じた。
外部有識者 6	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食については一定の実績がある。 ・地域の健康課題に対して、給食や自主事業を通じてどのように解決につなげていくかは、少し見えにくかった。

<応募団体 B に関する意見>

No.	意 見
外部有識者 1	<ul style="list-style-type: none"> ・初期投資について、売り上げが 7,000 億円を超える上場会社ではあるものの、50 億円近い借入れとなるので、その点は懸念される。 ・資金計画について、消費税の計算が甘いように見受けられる。計算の仕方は複数あるが、簡単な算定方法として、収入から費用を差し引き、人件費や借入金の返済金を差し引いた金額に 10%をかけて消費税額を計算すると、8,000 万円近くになるが、計画から 1 年で 5,000 万円ほどの乖離がある。
外部有識者 2	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ会社だが、学校給食を運営する企業と統括企業が別であるので、イノベーションを起こす際に連携がうまくできるかが重要である。 ・病院給食の経験があるとのことだが、病院では 3 食必要であるのに対し、学校給食は 1 食となる。人件費等、単純に費用が 3 分の 1 になるわけではないと思うが、その点が計算されているのか気になる。

No.	意 見
外部有識者 3	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションの創出に必要な取組について、その思いや考えは伝わったが、各機関と連携していくとの内容が多く、具体性・実現性に乏しいと感じた。 ・2階部分の施設整備について、主体となってイノベーションを創出するためには、研究開発に係るハード面の充実が必要と思うが、具体性・実現性は乏しいと感じた。(※) ・設備や人員配置面について、実際の研究開発をするなら、こんなチームで、こんな研究者を配置し、こんな研究開発をするといった内容があればいいが、この人員体制を含めて不十分な提案と感じる。(※)
外部有識者 4	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプトについては、十分理解していると感じた。事業に対する意気込みも伝わったが、具体性のところでは、「頑張っています。」という回答が多かった。 ・研究開発に係る人員体制・設備面については、納得できる説明はなかった。 ・雇用創出がイノベーションに繋がるという考えは、イノベーションに対する考えがこれで良いのかと危惧するところである。その点から、評価項目7の「オープンイノベーションに資する提案」といえるのかは少し疑問である。 ・子供食堂については、法令上の制約を十分に検討できていないのではないかと。やり方次第では法令上できない可能性があるため、15～17の評価項目については低い評価となるのではないかと。 ・施設周辺の車両の安全対策を実施要項で求めているが、配送ルート上の安全対策の提案のみであったと考えており、施設周辺の車両の安全対策については新たに資料をいただきたい。
外部有識者 5	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスターの形成について、資料からは給食企業も統括企業もあるので、シーズ情報はある。 ・ニーズの提供については、資料上で健都の機関との連携実績が強みに見えるが、それは自らのニーズ情報の発信が起点となったものではなく、相手方から健康に配慮したレシピをかたちにしたいとの意向により、実現したものとのことで、製品開発の具体的な事例は強みだが、事業者のニーズ提供への姿勢を裏付けるものではない。経験を積みその点も期待ができる。 ・シーズ発信はできると思われるが、ニーズを明確にできているかというと、まだそういった段階には至っていない。

No.	意 見
外部有識者 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元企業としての健都への思い、覚悟は感じた。 ・ 子供への食育に関し、独自の取組について質問をしたが、国循や健栄研とも連携し、日本一の給食調理を行いたいとの回答はあったが、具体的な例示はなかった。 ・ 高齢者施設や病院で給食提供している実績を学校給食に生かすとのことだが、学校給食そのものの経験が少ない中で、そのノウハウをこれから蓄積していくとの点について少し懸念が残る。

<応募団体 A・B に共通する意見>

外部有識者 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業の中にニーズを発信することでイノベーションを推進し、それを事業に繋げる人材がいれば、企業にとってもイノベーションに協力するインセンティブが生まれる。国循や健栄研がノウハウやアイデアを持っていたとしても、そうしたインセンティブを得られる体制がなければ事業としての発展性がない。 ・ 健都への進出をきっかけに、企業が発展できるような機会としていただきたい。
外部有識者 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配送車両の通行及び安全対策について、具体的に記載された資料及び提案がないため、追加資料を求めた上で評価をしてはどうか。 ⇒本意見への対応について、選定委員による協議の結果、全員一致により次のとおり決定した。 <p><対応></p> <p>各事業者から追加資料を受け付け、外部有識者 4 及び選定委員へ追加資料を共有し、外部有識者 4 からの追加意見の有無を確認した上で、評価を行う。</p>
外部有識者 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「医療クラスター形成への貢献が不足しているのではないか」との意見が多いが、不足しているのは「ニーズの明確化」であり、シーズはある。 ・ 国の健康や食に対する課題と、企業の課題は一致している。 ・ 共通の課題の解決にあたっては、吹田市からニーズ情報を明確化することで、国循や健栄研、介護事業者などとの連携を具体的に検討できる。日本の企業はオープンイノベーションに慣れていないが、ニーズがあれば外部に頼ればいい。そういった取組を、経営活動に取り入れ

	<p>ていければ、健都イノベーションパークとしても価値がある</p> <p>・交流会については、参加するが、主体的な取組が得られないといったことが問題になるが、それについては吹田市の各部署でどういった活動をしてほしいのか、呼びかけ・問いかけをすれば、事業者としてイニシアティブをとった活動ができる。</p>
--	---

※今回事業者から提案のあった研究・開発は、食の実装機能を活用し、そこで得られたデータや食品等を活用して実施するものであった。そうした性質の研究・開発においても、意見にあったとおり、実験機器を集積した専用の実験室の整備や、それらを使用可能な研究者の配置がなければ実現性が乏しいのかについて、委員長から事務局に対し、本会議の外部有識者のうち、研究・開発に関する識見を有する外部有識者へ追加意見を求めるよう指示があった。

◎令和7年9月17日に、研究に関する識見を有する外部有識者から追加意見を聴取。
第3回選定会議において、当該追加意見を踏まえて評価を実施。
(追加意見の内容については、第3回選定会議議事要旨に記載。)

(5) 開催結果

各事業者からの追加資料や外部有識者の追加意見等の内容を整理の上、後日改めて事業者選定会議を招集し提案内容の評価を行うこととした。